



神幸祭巡行路の見方

- 午前巡行路 (Morning parade route)
- 午後巡行路 (Afternoon parade route)
- 鳳輦・神輿受け渡し場所 (Palanquin and mikoshi handover locations)
- 巡行予定時刻 (Parade scheduled times)
- 氏子総代献饗 (Mikoshi representatives' offering)
- 着葦時刻 (Straw hat putting on times)
- 発葦時刻 (Straw hat taking off times)

※時刻は諸般の事情により変更する場合がございます。

両国旧御仮屋

神田祭の神幸祭を数日かけて行っていた頃、一時、鳳輦・神輿が留まる場所として両国(当時の日本橋区両国米沢町)に仮に建てられた小屋があった。現在は同地で昼御饗という祭典を行っている。



将門塚とは

古代に活躍した平将門公の御首を祀る。現在、日本最大のビジネス街・東京都千代田区大手町に位置する。将門公が天慶の乱により没し御首は京都へ運ばれ、その後、所縁の者たちが東国へ持ち帰り塚を築いたといわれる。そして月日が流れ、塚が荒廃し天変地異が頻発し、疫病が流行して周辺に住む村人たちが苦しめ、将門公の御神威として恐れられた。そこに東国廻国中の時宗遊行僧・真教上人が立ち寄り、村人たちに乞われ、将門公の御霊を供養し『蓮阿弥陀仏』の法号を授与した。これにより天変地異がやんだという。上人は塚の近くに芝崎道場日輪寺を開基。その後、将門公を延慶2年(1309)に塚に程近い神田明神に合祀し村の鎮守とし、以降人々により手厚く祀られ今日に至る。

現在、神田明神と周辺企業よりなる「将門塚保存会」を中心に保存管理がはかられ、毎年9月彼岸に将門塚例祭も行われている。東京都指定文化財(都旧跡)でもある。



0 100m
1:11,000